

守山の「産業」の魅力を探る



オリジナル特産品セットを手にしたモリヤマジュニアリポーターの皆さん(上は施設で紹介しているお土産の一部)

今回のテーマは「守山の産業」。駅の利用者、観光客、市民、地場産業の生産者など、あらゆる立場の人が交わり利用してもらうために機能する「守山市駅前総合案内所」の仕事取材しました。

守山市駅前総合案内所は平成19年4月から、守山商工会議所が指定管理者として施設の管理運営を委託されている施設です。年間7万人の利用者は、駅の乗降客や観光客だけでなく、証明書交付やギャラリー利用、コンサート鑑賞などの催しなどに訪れる市民もたくさんいます。また、案内所では守山メロンの加工品や湖魚の加工品、蜂蜜や醤油、お菓子など、市内を中心にした地場産業を展示紹介しています。「笠原生姜」「モリヤマイチゴ」など市内生産者と加工业者を仲介して新たな特産品を創出する商工会議所ならではの取り組みで、守山の産業の発展や観光客誘致、市民に地元の魅力を発信するなど多岐にわたる役割りを担っています。

モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで行い、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

①並河 恭子所長から案内所の説明を聞きました。②特産品のオリジナル詰め合わせを提案。③レンタサイクルの貸し出し。観光案内も体験しました。④所長にインタビュー。産業、観光、市民さまざまな立場の人をつないでいました。



特産品を使ったお土産 甘いメロンジュース

小学5年生 岡誠葉

ぼくは、守山市駅前総合案内所で守山の特産品について取材をしました。まず、守山ではどんな物を作っているのか所長さんに聞いたところ、メロンやイチゴなどを作っているそうです。守山メロンはいつごろから作っているか聞くと、約50年前から作られたそうです。また、現在は総合案内所でメロンバームクーヘンとメロンジュースなどが売っていました。そこで、メロンジュースをいただきます。感想はともあまくておいしかったです。

一日平均150人が利用 守山への思いこもった施設

小学5年生 池内 凜映

守山市駅前総合案内所では、観光案内や、作品展をはじめとするイベントのほか、レンタサイクルの貸し出しなども行っています。また、守山限定グッズや食べ物などの販売、市内の情報提供など、一日の平均利用者数は約150人で、毎日いろいろな観光客や市民が来られています。みんなが守山のことを好きになってほしい、詳しく知ってほしい、などの思いを込めて作られた場所だと私は思います。

市内の観光場所を案内 一番人気は佐川美術館

小学5年生 畑辺 航佑

守山市駅前総合案内所は、守山に初めて来た人やあまり知らない人が、場所や土産物を聞いたりする所です。他にも、守山の特産品をいろいろなところから仕入れています。守山には、たくさん観光場所があります。その中で、一番観光客が多いのは佐川美術館という場所です。なぜ、佐川美術館なのかということ、たくさんさんの画像が見れたり食べる所もあるからです。期間限定で楽しいイベントもあります。もっと沢山の人が守山のことを知ってほしいです。

情報発信や特産品展示 仕事内容は15種類以上

小学6年生 中嶋 遥陽

守山市駅前総合案内所へ取材に行ってきました。仕事の内容は、守山市の情報や観光するののいい場所を知らせたり、守山の特産品を展示販売していました。ほかにも15種類以上の仕事をしています。取材で特産品の詰め合わせをしました。お客さんに買ってもらうために守山の特産品を多く詰めました。一番楽しかったのは、カウンターで守山の案内をした事でした。お客さんへの話し方が難しかったけど案内できたので良かったです。また体験したいです。



モリヤマジュニアリポーター1年間のミッションを修了！

普段は見られないおもしろい守山を学べた



「守山の産業」をテーマにした記事が完成した平成31年1月15日、モリヤマジュニアリポーター4人は、一年間のミッションを修了した証書を受け取りました。

1年間の活動

顔合わせ

アイデア出しゲーム

勉強会①

座学・模擬取材

埋蔵文化財センター・下之郷史

跡公園を取材

記事執筆は宿題

執筆・編集①

読み合わせ・校正・推敲

10月15日号に記事掲載

反省会・編集会議

体験の感想・

アイデア出しゲーム

勉強会②

模擬テーマの執筆

駅前総合案内所を取材

記事執筆は宿題

執筆・編集②

読み合わせ・校正・推敲

2月15日号に記事掲載



広報担当者のつばやき

今年のジュニアリポーターは取材や執筆など、守山の魅力を伝えるために全員が頑張ってくれました。これからも守山市の魅力を伝えていってほしいです。

「モリヤマジュニアリポーター」は、新鮮な感性を持つ小学生の目線で守山の魅力を発信してもらうとともに、子どもたち自身に守山をもっと好きになってもらうための企画です。また、企画、取材、執筆、編集までペーシ制作に参加する事で、完成するまでの苦労や達成感など、普段できない体験や学びにつなげてほしいと考えています。

モリヤマジュニアリポーターに応募してくれた児童4人は、10月15日号と今号、2回の紙面制作のために平日夕方や週末など約10回集まり、さまざまな経験をしました。取材本番のインタビュアーや実務体験だけでなく、取材の勉強や準備、執筆、編集など裏方の作業にも積極的に関わりました。



いけうち きえ 池内 冨映

はじめは緊張して、何からしたらいいかわかりませんでした。取材でインタビュアーしたり、記事を書いたり、大変だったけれど、リポーターの仲間がいてくれたので、楽しみながらいろいろな体験ができました。



なかじま はるひろ 中嶋 遥陽

リポーターを通していろいろな勉強ができました。守山には遺跡が多くてびっくり。何千年も前の事がわかるのはすごいと思います。

守山はいいところです。がんばって書いた記事をもっと多くの人に見てほしいと思いました。



いわた せいいち 岡 誠葉

僕は作文が苦手なので大変でした。でも歴史で体験した火おこしは楽しかったけれど、今は電気があって良かったなと思いました。

貴重な体験がいろいろできたし、文章を書くのもちょっとだけ好きになったよな気がします。



えはた べいこうじ 畑辺 航佑

駅前総合案内所で僕が作った詰め合わせのお土産を買ってもらうことができ嬉しかったです。

企画や取材、記事の下書きや清書などの体験は、苦労した所もあるけれど楽しかったです。広報の記事が書いて良かったです。